



1 年ほど前に、日本で大きなスパイ事件がありました。殆どの方は忘れていていると思いますが、ソフトバンクの社員が 5G 技術をロシアのスパイに売り渡したんですね。

ロシアは何かというとなんとなく中国と手を組んで、アメリカや西側世界と張り合うことが多いのですが、内心 中国を恐れています。だから、中国の通信システムを採用することは絶対にあり得ません。

アメリカは GPS を作っており、中国には北斗という宇宙空間の通信システムがありますが、ロシアはそれとは別のものを使っているんですね。しかし、5G の技術がどうしても追いつかない。そこで、日本の大企業に白羽の矢を立て、ソフトバンクに潜り込もうとしたんです。

ロシア大使館に通商代表部があります。表向きはビジネスのための窓口みたいに言われているけど、これはれっきとしたスパイ組織で、通商代表部の代表代理アントン・カーニンはロシア軍部の諜報部員です。この人物がソフトバンクの社員に近づいて数年がかりで凋落させ、5G 技術を受け取っていたことが分かった。それで、すぐに日本の当局が動いて出頭命令を出したけど、外交特権を盾にして「なんで、行かなあかんねん。」

それが発覚してすぐに、昨年 2 月 10 日だったと思いますが、成田空港からアエロフロートに乗って、とっととロシアに帰って行ったんですよ。

その時、成田空港に日本のマスコミが押し掛けて、テレビカメラでアントン・カーニンを映し出して、「スパイです。スパイです。スパイが行こうとしています。」

スパイで分かってんねん。分かっているのに逮捕できず、(\*手を振って) ただ見送りー。

なぜ逮捕できないのか？ 日本は国内スパイを取り締まるための法律を、世界で唯一持ってない国なんです。スパイ防止法がない。だから「こいつ、スパイヤ」と分かっても、外交官特権だからということで、逮捕されずにそのまま母国に帰っている。スパイ天国なんですよ。

もし、これと同じことがロシアやアメリカ・中国・イギリスであつたら、最高刑は死刑です。

イギリスは死刑がないけど。闇から闇に葬られるということが当然あるんですよ。

ところで、このソフトバンクの社員にどうやって近づいたのか？ スパイはターゲットを定める前に、狙いを定めた企業を徹底的に研究し、社員たちのリストを傍聴して調べます。

もし、その社員がお酒が好き・夜の街が大好きならハニートラップ。

もし、その社員が不正や不倫などスキャンダルを抱えていたら脅迫。

もし、その社員がギャンブルか何かで借金して困っている。しかも、それを誰にも分からないように伏せている・隠している場合は金で買収。

いきなり現れて行っても当然警戒されるので、まず徹底的に調べるんです。

このソフトバンクの社員は、会社で色々ストレスがあつたんでしょう。みんなでワイワイガヤガヤではなく、都内の居酒屋に行って、1 人で飲むのがストレス解消法なんです。それを掴んだ。

いつも何曜日の・この時間帯の・この居酒屋の・この席に座るとのことまで掴んだ。  
そして、カレーニンは彼よりも先に行って、彼がいつも座る席のすぐ近くに全然知らんぷりして。  
やがて彼が来て飲んでる。その時に、なにげなく声かけて。「日本の居酒屋文化って楽しいですね。  
面白い文化ですよー。」アルコールの力を使って意気投合し、話が盛り上がっていく。

それからひと月後、全然違う場所でバツタリと出会うんです。「あなた、どこかで見たことがあると  
思ったら、あの居酒屋で一緒だったですよ。こんな所で出会うなんて奇遇ですねえ。」  
全部計算しています。

「実は私 日本企業の文化にすごく関心があるのですが、あなたはどこに勤めてらっしゃるんです  
か?」「ソフトバンクです。」「有名ですよ。企業について色々知りたいです。」  
というところから始まって、5年も6年も掛けて距離をどんどん縮めて行き、最終的には1回20万  
円の報酬で、5Gの技術を定期的に渡すようになったんです。ソフトバンクだけじゃないですよ。

こういう事が企業の第一線で行われているのですが、今LINE問題があるじゃないですか。  
僕ね、やっちゃった、LINE。LINEのユーザー1億8千万人いるけど、そのうち8千万人が日本人です  
よ。つまり、日本人の情報を取るためにやってるようなアプリですよ。  
LINEは1度ダウンロードしたら、そのアプリを消しても、自分のアカウントは永久にLINE社のサー  
バーの中に残ってるんです。LINEで免許証の写真を撮ってやり取りしたら、もう全部ですよ。

そのサーバーは韓国と中国にあったというの、朝日新聞がすっぱ抜いて。  
「いや、そんなことまでしてませんから」と言うのを朝日が3連発でやって、とうとう白状せざるを  
得なくなって「すみませんでした」と言ったけど、実に信用できない会社ですよ。  
だから、これから政府が介入しますよ。介入してもらわないと困りますが。  
ハッキリ言って、LINEが入っているスマホの電話帳、全部抜かれますからね。見ようと思えば。  
「そんなこと、やろうと思えばできるけど、やってません」って、信用できますか?

それはそうとして、自分がファイルしているそういう記事を見て、ウツと気になることがあって。  
梅田に行きつけの本屋さんがあるんです。いつもその本屋さんを愛用していて、数か月前、いつもの  
コーナーで、ちょっと立ち読みして物色していたんです。  
そしたら、30歳にはなってないと思いますが、若いカップルが「もしかして高原さんですか?  
YouTube見てます。」「あ、そうですかー。チャンネル登録よろしくお願いします。」私も嬉しいから。

だけど、女の人が何か少し日本語がおかしいから「不思議だな。外国の人かな」と思って。  
「特に習近平さんの批判の動画、大好きです。ありがとうございます。」

「なんで、ありがとうなんですか?」「私、台湾から来ました。」  
その時ね、フツとこのソフトバンクのスパイ事件がよぎったんですよ。ホントに私の視聴者で「あ、  
YouTubeの人いてるわ」と声掛けてくれた…のかもしれないけれど、もしかしたらスパイかなと。

で、「もし時間よろしければ、コーヒーでもご一緒したいんですけど。」誘われた。  
そんなん、普通初対面で誘いますか?その時、話が全然盛り上がらなかったです。  
私の中に警戒の気持ちがすごくあって、このお調子者の私が、“こいつ、もしかしたら…”という思  
いが、もうよぎってよぎって。一緒に行きませんでした。

もしかしたら、そうではなくて善良な一般市民かもしれない。  
もしそうなら、親しくなれたはずの人たちと、親しくなることができなくなったわけですね。

それはなぜかという、今世界は悪意で満ちていますよ。特にスパイ防止法がないこの日本。  
特に中国との絡みの中では、ロシアよりも中国のスパイの方がはるかに多い。  
オーストラリアが中国共産党員 2 万人のリストを公表したでしょ。  
その 2 万人の共産党員が、世界中のどこに勤務していたのか？ 政府の中にいた。官庁の中にもいた。  
日本の大手企業の中に、富士通の中にもいた。何百人単位で。  
もちろん、入社する時 そんなことは伏せてますよ。世界は悪意に満ちてる。

そんな聞いたら、ちょっと初対面の人が声掛けてくれても“ホンマか？”  
嫌な時代になりました。起こって欲しくない色んなこと、忌まわしいこと、非常に恐るべきことが、  
世界でしばしば事件となって現れますが、この悪意ある世界の悪の根源、それは中国ではなくロシア  
でもなく、目に見えない霊的な存在。悪魔（サタン）です。

今日見る黙示録 12 章は、サタンの本性・正体について非常に詳しく紹介しているところです。  
なので、それを踏まえながら 一緒に考えたいと思います。

患難時代は 7 年あります。反キリストが登場して、イスラエルと 7 年契約を結ぶのが患難時代初日。  
そして、イエス・キリストが地上再臨する時が患難時代の最終日。  
7 年間の患難時代は人類史上最も過酷な恐るべき時代で、前半 3 年半と後半 3 年半に分けられます。  
前半よりも後半の方がはるかに恐るべき時代です。  
なぜかという、ちょうど真ん中の時点で ある事件が起こる。  
その事件について紹介しているのが今日の 12 章なんですね。

最初に 12 章をざっくり言うと、神が治めている“第 3 の天”という所から、悪魔（サタン）が地上  
に投げ落とされます。投げ落とされた悪魔はすぐにイスラエル全滅をもくろんで、ユダヤ人絶滅計画  
に入って軍隊を送るけど、これが失敗するんですね。  
そこで悪魔は、ユダヤ人全滅作戦から、ユダヤ人の中での的を絞って、“残りの者”と言われる“ユダ  
ヤ人でありながらイエスを信じている人たち”を全滅させる作戦に切り替えます。というところまで。

この 12 章から 4 つのポイントで見たいと思います。

1) 悪魔の正体とは何か。 2) 悪魔がユダヤ人を全滅しようともくろむ理由。どうして悪魔はそんなに  
ユダヤ人を憎むのか。 3) 残りの者とは誰か。 4) 残りの者たちの信仰が支えられる、悪魔に対抗する  
手段とは何か。

1) 悪魔の正体とは何か。

7. さて、天に戦いが起こって、ミカエルとその御使いたちは竜と戦った。竜とその御使いたちも戦っ  
たが、

8. 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。

天に戦いが起こって。天は“第 3 の天”と言われている 神の御座がある場所でしょうね。

天において、誰が誰と戦ったのか。

ミカエル（天使のかしら/天使長）とその御使いたち VS 竜（悪魔/サタン）とその御使いたち（悪霊）。

ミカエルはイスラエル/ユダヤの国の人々を守る天使/守護天使です。

ダニエル書 12:1

その時、あなた（ユダヤ人ダニエル）の国の人々（ユダヤ人/イスラエル人）を守る大いなる君ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。

ミカエルが立ち上がる。立ち上がるこの時が、今日紹介する黙示録 12 章 7 節です。

黙示録はダニエル書なしに理解することはできません。特に今日の箇所はそうなんです。

さて、もう 1 度黙示録 12 章。

ミカエルとその御使いたちは悪魔とその使いたちと戦うのですが、悪魔とはいったいどんな存在か。5 つほど特徴があります。

9. こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。

#### ①その大きな竜

その。以前に既に 1 回出て来ているんです。この大きな竜は、非常に特徴的な姿をしていました。

7 つの頭と 10 本の角を持っていたんです。これは前回やりましたね。

7 つの頭と 10 本の角は、患難時代に世界を支配する帝国の姿です。詳しくは 17 章でやります。

いずれにしても、患難時代の後半 3 年半は、独裁国家が全世界を支配しますが、その帝国の姿は 7 つの頭と 10 本の角で表すことができる。

すなわち、サタンは現実世界を悪の独裁帝国で支配する存在。

悪魔そのものは目に見えないけど、目に見える強大な帝国を使って、世界の人間を支配していきます。

#### ②古い蛇

聖書で最初に蛇が登場するのは創世記 3 章です。エバが蛇に誘惑される場面ですね。

悪へ誘惑するもの。神への反逆をそそのかす存在。醜い悪を美しいものであるかのように偽って、人を駄目にする道にいざなう勢力・力。

10 代の若者がどうやって薬物に手を出すか、ご存知ですか？ もちろん、コンビニで売ってるわけではないので、そのスジのところで買うのですが、向こうの方から寄って来る。

遅くまで遊び歩いている若者たちに向かって誘惑するのですが、どうやって声を掛けるのか。

「これ吸ったら、頭に激痛走って、全身激しい痛みで七転八倒するよ。」 それ、誰が吸います？

「そんな怖いんやったらやめる」じゃないですか。最終的にそうなるんですけどね。

「これね、サイコーの気分になるよ。スキッとして勉強にも集中できるよ。イライラがスカッとして、頭がクリアになって。」 女の子には「ダイエット効果がある。この薬物やったら痩せるよ。」

「今回はお金要らないから、とにかく一遍やってみたら？ それから、これ違法じゃないから。合法

ドラッグ。合法って分かる？ 法律に則ってるという意味。これ摂取しても法律に違反しないから。犯罪じゃないから」と、まことしやかに言うんですね。それが入口で、最後やめられなくなるんです。

一緒です。“楽しんで幸せになれる道があるよ。/ズルして楽になれる道があるよ。/罪じゃない。/自己表現だよ。/創造主から離れた方が楽だよ。/神無しに自分のアイデアと力で、人間は十分に幸せになることができるんだよ。”

この古い蛇は、最初の人間を誘惑しただけではなく、今もずーっと、神無き幸せを追及させようとして、人間をいざない誘惑している存在。古い蛇。今も生きている蛇。今も働いています。

### ③悪魔

昔 自分の子供に悪魔と付けた親がおる。いくらキラキラネーム言うても それはないやろと。悪魔と翻訳されていますが、ギリシア語ではディアボロス/中傷する者・悪口を言う者。誰に対して誰のことを中傷するのか。3つあると思うんですね。

#### ◆神に対して人間を中傷する

「神よ、あなたは正義の神であられるでしょう。だけどアイツは、クリスチャンと言いながら、実にはいかがわしくて不誠実で、集会に来てない時にはいかがわしいことやってますよ。/アイツの心の中知ってますか？ むちゃくちゃ汚いですよ。/あんなの クリスチャンという名前に値しないですよ。/あいつ、木曜日の晩 黙示録聞きに行ってますけど、家に帰ったら竜みたいな生活してますよ。」  
神に向かってひっきりなしに、“あんな奴、拾ってやる価値ない”と中傷しているんですね。

#### ◆人に対して神を中傷する

最初にそれをやりました。エバに対して、「この善悪の知識の実を取って食べたら、あなた方の目が開かれて、あなた方が神のようになるということを神は知ってるんですよ。/神は、自分のような全知全能者は1人で十分と思っているんですよ。/あなた方が神のようになって、ライバルになるのを恐れてるんですよ。/ケチなんですよ。/神は意地汚いですよ。/神はあなたが考えているような立派な存在ではありません」から始まって。

「神はあなたのことを愛してませんよ。/あなたのことを考えてませんよ。/もしあなたのことを考えているのなら、なぜあなたの人生は そんなにうまくいかないんですか？/神があなたを本当に思っているのなら、もうちょっと親切にしてくれてもいいんじゃないですか？/なぜ、やることなすこと裏目に出続けているんですか？/神はあなたを愛していません。/神はもっと冷酷ですよ。」

もし、皆さんの心にそういう思いがフツとよぎったり、そんな思いや考えに捉われてしまって、“神様は私のことなんかもう忘れてる・捨ててる”というような心境になったら、それは神からのものではなく、悪魔からのものです。まさに、あなたに対して神のことを中傷しているんです。この中傷している者のことを悪魔/ディアボロスと言うのです。耳を貸してはならない。

#### ◆人に対して他の人を中傷する

「あの同僚、いったいどうなってんねん。はよ 死ね！」みたいな。  
人生は1回しかありません。1回しかない貴重な人生を恨みに費やして、生きることができたはずの、

味わうことができたはずの肯定的な人生を、生き損なうように引っ張り込みます。中傷しています。文字通り悪魔的です。これが悪魔の本質です。

#### ④サタン

これは直訳すると“敵対者”。神に敵対する。神/創造主の性質の全てに敵対する。創造主は正義。だから悪を行う。/創造主は公平。だから不公平を振りまく。創造主は恵み深い。だから残忍。/創造主は愛。サタンは憎しみの塊。創造主の本質の正反対がサタン。敵対者。

それだけではなく、創造主の計画に真っ向から敵対している霊的な存在。創造主の計画とは再生計画です。結局 神様は人類に・この世界に何をしようとしているのか？ 罪によって台無しになった人間や全被造世界を回復させる、という一大プロジェクトに取り組んでおられるのです。

これを完全再生するための救済プランが福音です。福音は個人の救いだけじゃなくて、宇宙全体の回復でもあるんですね。壮なるもの。この福音に徹底的に反対する者です。それで、福音を語る者を黙らせるために、ある国では迫害する。信仰の自由があって迫害されない所では、福音と似て非なる異端的なカルト宗教を増殖させる。

『ハフィントンポスト』というリベラル系のネット新聞に特集がありました。4月からようやく対面でやろうというのを狙って、今 韓国系のカルト宗教が「私たち聖書を勉強してるんですけど、どうですか？」 入口はにこやかだけど悪魔的ですよ。一旦入ったら自分で判断できない。敵対してるんですよ、福音に対して。それを信じてしまったら、本当の福音を聞いても、その観点でないと聞けないので、説明しても耳に・心に入らない。恐ろしいですね。まさにサタンです。

#### ⑤全世界を惑わす者

つまり、フェイクニュースの根源。総元締め。これが悪魔です。

ジョージ・オーウェルが 1949 年に書いた『1984 年』という近未来小説の本があって、ディストピア小説です。ディストピアの反対がユートピア。ユートピアは理想世界と翻訳されてるけど、ラテン語ではウッドポス。“ウツ”は“無い”という意味で、現実には無い世界。それが理想世界。その方がものすごくシュールな感じするけど。

ディストピアは暗黒世界。やがて こんな世界が実現するかもしれないということで、1人の独裁者が独裁政党を作って、その完全監視社会の下で人間がコントロールされるという小説が『1984 年』。

主人公はウィンストン・スミス。彼は政府の役人です。政府には省が4つしかなくて、彼の所属は外務省でも大蔵省でもなく真理省。真理省は過去にあった歴史を書き替えるための省なんです。今まであった歴史を独裁者崇拝の結論に持って行くために、事実を捻じ曲げて「この独裁者様がいなければ、今頃いったいどうなっていたことか！」 独裁者礼賛に持って行くために、有ること無いこと・無いこと無いこと、どっかの国の歴史みたいや。

まがいものの歴史を作って、それを事実として教える。

そのために、一生懸命 過去の書き替えをしている役人 ウィンストン・スミス。

歴史はそれぞれの国にそれぞれの見方があるので、それぞれの見解があるでしょうが、事実そのものは動かないと思うんですね。

ところで、[全世界を惑わす](#)と書いてあるじゃないですか。

今ほぼほぼ全世界が立っている、書き替えられた共通の歴史観が1つあると思います。進化論です。

この世界は創造主がお造りになった。“いいえ、偶然出来た。”

人間/最初の人間は、創造主によって造られた作品である。“いいえ、宇宙から来た。”

はやぶさが小惑星リュウグウに行って、上から重さ2キロくらいの銅の弾丸をバーン撃って、地面から埃が舞い上がって、その埃（地面の表面だけでなく奥の方の岩石の破片）を吸い込んだやつを持って帰って来たんですよ。この研究の意図は何だと思いませんか？

地球の生命体は、最初の地球環境を考えると自然に湧いて来るのはあり得ない、という結論になっているのですが、実際生命体がある。神が造ったから。

“いや、それは認めることはできない。宇宙から何らかの形で隕石で運ばれて、生命体が辿り着いた”という考えです。これは進化論なんです。

日本の最高のあの JAXA の人たちが、それを信じてやってるんですよ。はやぶさ2。

はやぶさの成功自体は、日本の技術が成功したんでムチャクチャ嬉しい。

だけど、その理由を聞くと“う～ん、カンカンカン” 騙されている。あんな賢い人たちが。

全世界は進化論的な世界観で騙されてるじゃないですか。

って言ったら、「あいつ、創造論ホンマに信じて言ってるのや」と思って YouTube 聞いている人、絶対いてはるわ。

この間もメール来たんですよ。「もう創造論とか進化論とか分かり合えないと思うから、それはそれでいいではありませんか」って、私を説得しにかかって。あ～、騙されてるねえ。

[全世界を惑わす者](#)。歴史の書き替え。進化論が正しいのなら、創造主なんかいないということですよ。創造主は架空の存在である。で、最も進化している人間が、神の代理人として善悪の基準を決めてもいい、という形になって行くんです。これは、人間が神になっていくための土台になるんですね。だからやがて、人間なのに神だと名乗る奴が出て来るんです。それは次回に見たいと思います。これが5番目。

悪魔とその使いが、ミカエルとその御使いと戦って負けるのですが、語順をよく調べてみたら、悪魔の方がミカエル軍に襲いかかったんじゃないんです。

ミカエルとその御使いたちが悪魔に襲いかかって、悪魔は応戦したけど勝てなかった。

悪魔はなぜ挑まなかったんでしょう？ 勝てないんですねえ。

だって、御使い全体の1/3が悪魔に付いているけど、神の側は残りの2/3でしょ。

数だけでいっても神の方が倍なんです。もちろん、数が多いから勝つんじゃないですよ。

神の側だからですけど、とにかく敗北して、[9. また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。](#)

どこで戦いがありました？ 天です。天で戦いがあって、天から地上に投げ落とされた。それまでは天にいた。天にいて、地上の多くのクリスチャンたちを訴えたり、悪さをしていた。しかし、この段階で投げ落とされた。

彼（悪魔）の使いたちも彼とともに投げ落とされたのは、患難時代の前半3年半と後半3年半のちょうど真ん中の時。だから、地上は前半よりもはるかに酷いことになるんです。

投げ落とされた時、天にいる人たちは大喜びで、大声で賛美するんですね。

10. 私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。

12. それゆえ、天とそこに住む者たちよ、喜べ。」

悪魔は天で何をしていたかというのと、昼も夜も兄弟たち（イエスを信じた人たち）を告訴・告発してたんです。“あんな者はクリスチャンの風上にも置けない”みたいに、神に向かって訴える。

この訴えている者が地上に落とされた。

12. 「しかし、地と海はわざわざいだ。悪魔が自分の時が短いことを知って激しく憤り、おまえたちのところへ下ったからだ。」

悪魔は前半と後半の真ん中からは地上にしか居れないので、地上で大暴れするんです。

しかし、大暴れするのは元気だからじゃないんですよ。

昔 何かで聞いたんですが。ある宣教師がいつも巡回している出張所の中に、5mか6mもあるようなアナコンダがとぐる巻いているんですって。「ヘビや〜！」

そーっと出て行っても、そんなとこ いついてもらっても困りますやん。そこで、ライフルで撃ち殺そうとするんですが、弾が1発しか入ってない。外したら怖いでえ。寝た子を起こすと。

スヤスヤと休んでいるこの蛇、胴体とかしっぽを狙ってもダメですよ。頭です。

散弾銃といって、頭にめり込んだ後で、体の中で小さい粒々がブワッと炸裂する弾があるんです。

狙い定めてバーン！ すぐドア閉めて外に出た。そしたら、もう暴れまくって。蛇が。

サザエさんのエンディングの時の家みたい。家がぐわ〜んなって。

これ 大暴れしているのは、元気だからじゃなくて痛いからです。七転八倒してるんですよ。

悪魔が地上に投げ落とされて大いに怒っている理由は、自分の時が短いことを知って激しく憤り。

「このままだと あと3年半でキリストの地上再臨がある。そうしたら、私は神が準備した“底知れぬ穴”に放り込まれる。もう残り時間は3年半しかない。」

焦って猛り狂った状態で、この地上で大暴れする。これが、後半3年半の霊的な舞台裏です。

2 番目です。

地上に落とされた悪魔が、真っ先にすることがあるんですね。

13. 竜は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子を産んだ女を追いかけた。

竜（悪魔/サタン）は男の子（メシア）を産み出した女（イスラエル/ユダヤ民族）を追いかけた。

悪魔が本気になってイスラエル全滅に取り掛かるなら、本当はイスラエルはひとたまりもない。

14. しかし（しかし、です）、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒野にある自分の場所に飛んで行って、そこで一時（ひととき）と二時（ふたとき）と半時（はんとき）の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。

女は大きな鷲の翼で、荒野にある隠れ場に逃げる。女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。これは、イスラエルに何か突然羽が生えるとか、アメリカ空軍の輸送機が来て運んでくれるとか、そういうことじゃないんですね。

#### 出エジプト記 19:4

あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。

これはエジプトを脱出した後、神が語られていることです。

エジプトのファラオ（王）がイスラエル人たち/ユダヤ人たちを滅ぼそうと散々迫害するけど、最終的にイスラエルは脱出して、乾いた海を渡った。追いかけて来たエジプトの軍隊は海の藻屑になった。ユダヤ人たちは一人も失われることなく、皆脱出することができた。

この一連の出来事の中で、鷲は 1 回も出て来ません。ものすごいモスラみたいな鷲がウワ〜っ現れて、200 万人〜300 万人のイスラエルを背中に乗せてうわ〜って…、そんなん ないですよ。

鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来た。この言葉の使い方を見ると、“わたしは完全な保護をもって、あなたがたを守ってここまで連れて来た。”

だから、悪魔はイスラエルを全滅させようと狙うけれど、イスラエルは完全なる神様の 超自然的な保護によって荒野に行きます。この荒野はヨルダン南部にあるボツラ。そこに彼らは匿われ、後半 3 年半の間、ボツラの荒野で生活するんです。

なぜ分かるかという、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。一時と二時と半時は 3 時間半じゃなくて 3 年半。12 章 14 節は 12 章 6 節の言い直しだから。

6. 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。

これを別の言葉で

14. しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒野にある自分の場所に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。

だから一時と二時と半時は 3 年半。千二百六十日はユダヤ暦で 3 年半に当たるからです。

しかし、悪魔はそんなことでは諦めません。

15. すると蛇はその口から、女のうしろへ水を川のように吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。

この水は Water のことではなくて軍隊のことです。

なぜかという、この 12 章はダニエル書をベースに語られていて、一時と二時と半時という言い方も、ダニエル書が語っている患難時代の預言に相当する箇所なんです。

#### ダニエル書 11:22

彼の前では、洪水のような軍勢も、契約の君主さえも一掃されて打ち碎かれる。

軍隊が洪水になぞらえられています。しかし、この 11 章 22 節は患難時代の預言ではありません。

#### ダニエル書 11:40

終わりの時に、南の王が彼と戦いを交える。北の王は戦車、騎兵、および大船団を率いて南の王を襲撃し、国々に侵入し、洪水のように通り過ぎる。

これが患難時代の預言です。終わりの時にと書いてあるから。終わりの時というのが終末・患難時代。軍隊がブワッと攻め込んで来るのを、洪水が通り過ぎて行くという描写になぞらえてるんですね。

“竜の口から大水が出て来てイスラエルを襲おうとした”というのは、“イスラエルに向かって大軍勢が押し寄せて来る”ということ。つまり、後半の 3 年半の最初に戦争があるということなんです。これは 2 回目の戦争なんですよ。1 回目は前半部分の赤い馬のところ。2 回目の戦争がここ。

#### 16. しかし、地は女を助け、その口を開けて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。

イスラエルをずーっと追いかけて行くのですが、結局 この軍隊は全滅します。

“イスラエルを呪う者は呪われる”が、ここでもまた立証されているんです。患難時代後半の頭のところで、イスラエルを滅ぼそうとした軍隊が全滅するわけですね。

悪魔はここで諦めません。勝つまでは。ここで戦略を切り替えるんです。

それまではイスラエル全体を滅ぼそうとしたのですが、17 節では、イスラエルの中でイエスを信じている人たちに的を絞って攻撃しようとしています。

#### 17. すると竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っている者たちと戦おうとして出て行った。

女の子孫なのでユダヤ人です。ユダヤ人の中でイエスの証しを堅く保っている者たち、すなわち、ユダヤ人信者（ユダヤ人でイエスを救い主として信じている者たち）を滅ぼそうとして出て行った。

なぜ悪魔はそんなにユダヤ人を憎むのか？

もっと言うと、なぜ悪魔は、ユダヤ人でイエスを信じている者たちをこんなにも憎んだのか？

それは前回の動画でも申し上げていますが、キリストの地上再臨の条件は、ユダヤ人たちが民族的なスケールで、ナザレのイエスに対して「ホサナ。主の御名によって来られる方に！」と、メシアとして信仰告白することです。“ユダヤ人がイエスを救い主として国民的スケールで告白する”時、それができたなら、地上再臨があるんですよ。

ということは、“ユダヤ人でイエスを信じる者が全滅したら地上再臨はない”と考えたんです。

全滅するということは、「主の御名によって来られる方に」と言う人が 1 人もいないわけで、地上再臨の条件は実現しないので再臨もない。それで集中的に狙うのです。

#### 18. そして、竜は海辺の砂の上に立った。

これからは、特にユダヤ人信者（イエスを信じる者たち）を全滅させるために、竜は 2 人の器を使います。1 人は“海から上って来る獣”と呼ばれている者で、これが反キリストです。

もう 1 人は“地から上って来る獣”と呼ばれている者で、これが偽預言者です。

この反キリストと偽預言者を用いて、後半の 3 年半、めちゃくちゃします。

反キリストと偽預言者は 13 章で登場するので、次回詳しく見たいと思います。

さて、今日の結論です。悪魔に打ち勝つ方法について、最後考えたいと思います。

11. 兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜に打ち勝った。彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。

これは、殉教者たちが天で叫んでいる賛美の言葉です。竜は悪魔です。

ここに、悪魔に打ち勝つために 3 つのものが紹介されています。

#### ★子羊の血

子羊とは救い主イエス・キリストです。聖書では血はいのち。

子羊がいけにえとして屠られるように、イエス・キリストは十字架に掛かって、私たちのために血を流してくださいました。この血にどんな効力があるのか？

黙示録 7:14 そこで私が「私の主よ、あなたこそご存知です」と言うと、長老は私に言った。

「この人たちは大きな患難を経て来た者たちで、その衣を洗い、子羊の血で白くしたのです。」

皆さん、イエス・キリストの血潮はどんな罪も洗い流します。洗い流せない罪は 1 つもありません。イエス・キリストのゆえに、赦されない罪はない。どんな罪もイエスの血の効力のゆえに赦されます。あなたが過去にどんなに酷いことをやったとしてもですよ、その罪もイエス・キリストの血潮によって白くすることができます。どんな罪も消すことができるというのは、その罪の深さよりももっと深い価値が、イエス・キリストの血にはあるのです。

昼も夜も悪魔が告発しているのに、なぜクリスチャンたちは立っていることができているのか？

全部却下されていったから。「神よ、コイツはこんな悪いことしました。考えました。口走りました。」

「しかし、彼はイエスの血潮を身に帯びている者である。イエス・キリストを救い主として信じるというのは、イエスの血潮を自分の身に浴びたのと同じことだ。このキリストの血潮のゆえに、彼の罪はわたしの目に見えない。彼には罪がない。」

悪魔は神に訴えてもムダ。無駄なのに訴え続けているんですね。

神に訴えても却下されるので、クリスチャンの不完全な良心に訴えるんです。

“それでもクリスチャンか？” 私たちが悔い改める勇気を失うように引っ張って行こうとする。

しかし、子羊の血で白くしたのです。これを本当に信じることです。

これを信じると、立ち上がる勇気が出て来ます。私の罪は洗い流されて、神の前にはない。

神は覚えておられない。これが、立ち上がる力を与えてくれるんですね。

#### ★自分たちの証しのことば

聖書の言葉は、順調な時よりも逆境の時・絶体絶命のピンチの時・極限状態の時に一層その真価を発揮して、“ああ、神の言葉は真実だ。/神様はこの時に祈りに応えてくださった。/この時に守ってください” と、神様の約束の力強さを経験することができるんですね。

患難時代の信者たちは極限状態に置かれています。

いつ死ぬか分からない・いつダメになるか分からないという中で、彼らは御言葉に生きてたんですね。

神の御言葉は彼らを裏切りませんでした。この約束の上をしっかり立つ時、“私たちは真実でなくても彼は真実である。彼はご自分を否むことはできないから。”

神の言葉が悪魔に打ち勝つための武器です。

だから、神の言葉を正確に学んで、知って、それを適用することがとても大事だと思います。

なんぼ神の言葉がたくさんあっても、読んだことなかったら、ねえ。知らなかったら用いようがないでしょう。

★彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。

惜しいと訳されている言葉はアガペーの意味です。アガパオ/神の一方的な愛。

自分のいのちを“絶対手放さない”とは愛さなかった。つまり殉教した。どのようにそれをしたのか？

黙示録 2:10 あなたが受けようとしている苦しみを、何も恐れることはない。見よ。悪魔は試すために、あなたがたのうちのだれかを牢に投げ込もうとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあう。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与える。

これは、スミルナの教会への勧めの言葉です。死に至るまで忠実でありなさいと書いてあるんですね。

忠犬ハチ公というのが渋谷の駅の前にあるそうですが、実は全国にそういう像が建っているそうです。犬って忠実な動物。この前 YouTube で見たのは、スコットランドのエジンバラにある忠犬ハチ公、じゃなくてボビー。

1858年、警察官のジョン・クレイさんが亡くなりました。彼は大変な愛犬家で、ボビーという犬を飼ってました。ボビーは主人の棺が地面に埋められるのを見ていたのですが、それから墓から離れなくなって、そこに住みついて、墓のガード犬になるんです。

主人に養ってもらったのは2年間だけ。だけど、ボビーは死ぬまで、すなわち主人が亡くなって14年間、墓から離れずに守り続けました。それで、エジンバラの貴族がいたく感動して、自分の財産でボビーの銅像を作り、主人のお墓のすぐ近くに設置したというのです。

この貴族は何に感動したんですか？ 忠実さ。

たった2年間良くしてくれた人間の、しかも死んだ主人に14年間忠誠を誓っているこの犬を見た時、死んでまたよみがえった私の主人、この方に対して、私はどうだろうか。

死に至るまで忠実であれ。実際にそのときになった時、出来るだろうか。

私が浪人時代、ある伝道者夫妻がこの集会に来てくれました。

その日は大学合格発表の日で…、落ちたんですよ。「落ちた…」とガックリ。

その時、その伝道者には息子さんがいるのですが、札幌ナンバーワンの進学校で、模擬テストではすごくいいのに、本番になると何かやるんですね。結局2浪で、行きたくなかった酪農関係の私立大学に補欠で入るんです。「彼がへりくだるために、それが必要だったと思うよ」言うてね。

この間 その方からお手紙をもらったので嬉しかったのですが、最後に何と書いてあったか。

“高原兄弟、若い時から変わらずイエス様に付いていらっしゃるのね。ひと言だけ言わせてください。

『死に至るまで忠実でありなさい』。”

こわっ！ まあね、言いそう。って、言ってもらって嬉しいんですよ。嬉しい。

嬉しいんですけど、「死に至るまで忠実でありなさい。」

思わず背筋がシャンと伸びるんですが、**忠実であれ**の“忠実”という言葉はピスティスとかピストス。これには“忠実”と同時に“信じる”という意味があるんです。

もし「死に至るまで絶対に遅れを取るなよ！ 忠実であれよ！」と言われたら、「いや、自分に出来るかなあ。そんなん、いざとなったら 臆病やから逃げるんちゃうかな。」

そんな意味もあるけど、「死に至るまで信じていなさい。最後の息を引き取る瞬間まで、主は私を立てることができる信頼していなさい。私の信じる信念の力ではなく、主はこんな臆病な者も、最後までキリストに付いて行くことが出来るようにしてくださるのだ、と主の忠実さを信頼しなさい。」それだったら、させていたいただきたいなと思いました。

キリストの血潮。神の御言葉。キリストご自身の忠実さ。

これが患難時代の信者たちを勝たしめた力です。これが私たちを勝たせる力の源泉となっています。

ぜひ皆さんもイエス様を信じて、こんな恐ろしい時代に入る前に救われてください。

心からお勧めします。

~~~~~

\* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」

\* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 15 分) もぜひどうぞ。YouTube もあります。

\* YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi